



三芳野

目指す 活かに満ち、
学校像 さわやかに、
心なごむ学校

生徒数 274名 1年 92名 2年 68名 3年 114名 校長 天達 新一

114名の卒業生の前途に幸多からんことを祈る

卒業生の皆さん。ご卒業おめでとうございます。野田中学校での出会いと学び、思い出を大切に、新たな世界で活躍してくれることを願っています。どうもありがとう。そして、さようなら。

式 辞

大地に恵みをもたらす春の雨の中、木々の枝先に生命の息吹が感じられる今日の佳き日、川越市教育委員会並びに本校PTA会長様をはじめ、卒業生の保護者の皆様にご臨席・ご列席を賜り、川越市立野田中学校第三十八回卒業式を挙行できることを大変嬉しく思うと同時に、深く感謝申し上げます。

百十四名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。今、皆さん一人一人に手渡した卒業証書が、野田中学校で義務教育の課程を修めた証です。母校を巣立ち、新たな世界に力一杯羽ばたいていこうとする皆さんに、心からエールを贈ります。

さて、皆さんは新型コロナウイルスの感染が世界中で広がるという、これまでの歴史の中で人類が経験したことのない未曾有の難局の中で中学校生活を送りました。昨年度末から三か月に亘る臨時休業を余儀なくされ、学校再開後も、三年間の締めくくりのはずだった最後の公式戦やコンクール、発表会、学校行事等を行えませんでした。感染拡大の第三波の最中では、再度の臨時休業を強いることにもなり、皆さんにさぞかしつらい思いや不便な思いをさせたことと思います。校長として慚愧の念に堪えません。

しかし、このような危機の中にあっても、皆さんは明るい笑顔を失わず、朝の登校時には元氣よく「おはようございます」と挨拶しながら登校してくれました。日々の授業の中では、瞳を輝かせて多くのことを学び、自らの進路の実現に向けて努力を忘れませんでした。昼休みや休み時間の合間には失われた時間を取り戻そうと、級友や先生方と楽しげに語り、時にはお互いの悩みを相談し合い、一日一日を大切に過ごしている皆さんの姿に、私たちはいつも元氣づけられました。

皆さんに向けて語りたことは多々ありましたが、コロナ禍にあつてなかなか言葉を尽くして伝えることもままならず今日の日を迎えてしまいました。本日、この野田中学校を巣立ちゆく皆さんに、最後の言葉として、三つの心について話をします。

一つ目の心は「向学心」です。中国の古典『論語』の冒頭に、「学びて時に之を習ふ、亦た説ばしからずや」という一節があります。これは学問をして、その学んだことを日々、繰り返して学びに生かすことで理解が深まり身につくという意味です。そして同じく『論語』の一節に「吾十有五にして学に志す」とあります。これは「十五歳のときに学問を志す」という意味です。皆さんは十五歳でこの野田中学校を卒業し、それぞれが志をもって新たな学び舎で学び続けることでしょう。皆さんがこの先何十年もの長い人生を豊かで実り多く、多くの人々の役に立つ人生を送るための本当の学びがこれからの学びです。中学校の卒業は、九年間の義務教育を終えて学びの礎を築いたということであり、その礎の上に立った新たな学びの始まりでもあ

ります。新たな学びのスタートですから、どうか「向学心」を失わずに、これからの人生を歩んでほしいと願っています。

因みに、私はかつて読んだ『マスター・キートン』というコミック（漫画）の中に出てくるフレーズが今でも忘れられません。主人公が大学院生としてイギリス留学中に師事していた教授の、戦時中のエピソードとして語られるのですが、この教授の、「人間はどんなところでも学ぶことができる。知りたいという心さえあれば。」という言葉から、向学心をもつことが何よりも大切だということを私は学びました。人はコミックのエピソードからでも学ぶことができます。

二つ目は「克己心」です。克己心とは己の弱さを克服する心です。人は誰でも弱い心を抱えて生きています。つらいことや苦しいことを乗り越えず、途中で逃げ出してしまったり、自らを省みることなく他人をうらやんだり、自分本位の言動で人を傷つけることで優越感に浸ったりしてしまいます。皆さんも、これからの長い人生の中で自分の心の中にそんな弱い己がいることに気づくときがあるかもしれません。そのときは、謙虚に自分自身と向き合い、自分自身に嘘をつかない、本当の強さと優しさを兼ね備えた心を育ててください。

『論語』の中には次のような一節があります。「過ちては則ち改むるに憚ること勿れ。」これは、過失を犯したことに気づいたら、すぐに改めなければならないという意味です。「己の欲せざるところは人に施すことなかれ」という一節もあります。これは、自分にとって嫌なことは誰にとっても同じなのだから、他人にすべきではないという意味です。皆さんへの卒業の饞にこの二つの言葉を贈ります。どうか皆さんの心の支えにしてください。

三つ目の心は「愛校心」です。三年前、真新しい制服に身を包み、期待に胸を膨らませて、皆さんはこの野田中学校に入学しました。心許せる仲間たちと出会い、互いに支え合い高め合いながら学び、時に喜びを分かち合い、時にささいな諍いを経て、友情を育んだのも、この野田中学校です。また、誰よりも皆さんのことを考え、皆さんの成長のために骨身を惜しまず愛情を注いでくれた先生方と信頼の絆で結び、かけがえのない日々を過ごしたのもこの野田中学校です。校歌にも歌われた「泉湧く多濃武沢」に建つ母校での日々を心に刻み、いつまでも忘れずにいることが「愛校心」です。

皆さんは四月から新たな学び舎で学び続けます。大切なことは、どこに進むかでなく、進んだ先で何を学ぶかです。野田中学校で育んだ「愛校心」を新しい学校での新たな出会いの中で、さらに育ててください。

保護者の皆様、大切に慈しみ育ててこられたお子様の姿に、感慨も一入のことと存じます。これまでの親子の道のりを振り返れば、時に素直になれず、親の気持ちに背くこともあったかもしれません。しかし、本日、受付でお渡しした手紙には、きっと皆様への本心がしたためられていることでしょう。私はもとより、担任はじめ本校の職員一同、今日の感激を皆様と共に味わえたことを、この上ない喜びと受け止めております。

結びに、早朝よりご臨席賜りましたご来賓のお二方には、本校卒業生の新たな旅立ちを祝福していただきありがとうございます。今後とも、卒業生への激励と本校教育に対する変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

百十四名の卒業生の皆さん。皆さんとこの野田中学校で出会い、共に過ごせたこと、本当に幸せでした。ありがとう。皆さんの前途に幸多からんことを祈念いたしまして、式辞とさせていただきます。

令和三年三月十三日

川崎市立野田中学校長 天達 新一